寄稿

学生時代の思い出，その後

田中順子（旧姓 寺田）
1990 年学部卒，1992 年修士修了，2001 年博士取得

昨年 2017 年の秋，同窓会出席のため私は久しぶりに北部構内を歩いていた．案内には理学研究科 3 号館にて開催とある．グーグル地図を頼りにキョロキョロしながら辿り着いたのは，なんのことはない，数学教室であった．

110 講演室，旧第 3 講義室にて総会が行われた．前方には真新しいスライド式の黒板が掛けられ，以前の黒板は後方に移されていた．一枚板のこの大きさの物は貴重なのだと懇親会のときに専攻長坂上貴之先生から説明があった．机とバタフライ式の椅子はそのままだが，定期的に塗り直されているのであろうか，大事に使われているように感じた．同窓会長の井川満先生は,「この教室はよく知っている．声の通りもよく，黒板も広い，良い教室だ.」と当時を懐かしむようにおっしゃった．私は，自分にもここに通った学生時代があったことを思い出していた．

数学教室に通い始めたのは 1987 年，楠幸男先生の二回生向け複素解析講義のためだったと記憶する．ダンディーな楠先生は女子学生に人気があった．私は図書館で借りた教科書を期限が来る度に借り直すという方法ですっかり私物化し，買うことをしない不真面目な学生であった．

三回生の大竹博巳先生の解析学演義は，大半が収束の証明問題であったように思う．解く順序は自由だが，別の問題の結果を使うにはそれが既に解決済であることが必要となる．当たり前の約束事だが，そのときの私にはそれが新鮮に思えた．女子仲間で群論の本を読んだのもこの頃だ．夏になると友人の下宿である「白百合荘」に集まった．美人の彼女の部屋にはファッション雑誌が並んでいた．勉強の後は女子話に花が咲いた．

教養部の思い出もある．一回生のときには微分積分学担当の斎藤裕先生のお部屋に押しかけ，セミナーの面倒をみていただいた．同級生数人とシュバレーのリー群論を読んだ．初めて英語の本を手にして，学問に触れた気分で浮かれていた．つまりはミーハーだったのである．

四回生の講究からの流れで，1990 年に修士の学生として平井武先生の研究室に入れていただいた．辰馬伸彦先生，野村隆昭先生，梅田亨先生，西山享先生，山下博先生などが大学院生の指導を担当されていた．平井先生が他の先生に私を託すことなく直接ご指導くださったのは，不出来な学生へのご配慮であったろうと感謝している．

修士進学の年の夏に ICM90 が国際会館で開催され，表現論シンポジウムがその後すぐ河口湖のほとりで行われた．私は「外国人女性研究者の世話のため」との指示で

前日から宿泊し，翌日の富士登山になんとなく付いて行ったが，気が付くと日本人は私一人であった．周りは第一線で活躍する研究者ばかりである．著名な数学者は皆故人だとの思い込みは間違いだったとこのとき知った．当時読んでいた本の著者であるKnapp先生も参加されていた．サインをいただいた本は，宝物として今も手元にある．

毎週火曜に函数解析セミナーが行われた．参加者は十五人程であったと記憶する．学期末にはよく楽友会館で食事を楽しんだ．政治経済，世界各国の情勢，芸術など，話題は多方面に及んだ．

集中講義や外国の先生の来日の際には，主賓とともに学生達が先生のお宅に招かれ，奥様の手料理をご馳走になった．洋食，繊細な和食，豪快な煮込みとレパートリーはさまざまで，アルザスワインや日本酒白鷹などとともに所狭しと食卓に並んだ.「若い頃の家内の料理は酒がないととても食えない物だったが，上達した今はこんなにおいしい物を酒なしで食べるともったいない」と先生は上機嫌でおっしゃった．私にとっても，忘れられぬ味である．決してお世辞ではない．

楽友会館で「そのうちあのような知的な大人になりたい」と先生方の話にうっとり耳を傾ける一方，先生宅では「いつか主婦を極めてこんな料理が作れるようになるだろうか」と夢想した．いずれも未だ実現してはいない．

平井先生からは多くのことを教わった．あるとき，科研費申請の書類提出を促された．通るはずがないと思いつつも一応空欄を埋めたが，先生は「もっと偉そうに書いた方がいい」と言いながら「勉強しています」を「研究する」に変えるなどの添削を施し，巧みに言葉を足してそれらしく整えてくださった．それは自信なさげな元の書類から一変し，もしかしたら通るかも知れないと私を錯覚させるほどの出来映えとなった．無論世の中そう甘くはなかったのだが，この経験は，後に息子を保育所に入れる際，大いに役立つことになる．競争率が高いことを知った私は自分の仕事の重要性と息子がどれほど保育を必要としているかをレポート用紙一枚にでっちあげ，申込書類に添付した．それが功を奏したのであろう．明らかに私より真面目に働く近所のお母さん達をさしおいて息子を保育所にねじ込むことが出来た．私は書類作成の技術を先生のご指導で身に付けたのだ．

もともと研究者になることを強く希望していたわけではない．むしろ授業について行けず落ちこぼれていたくらいだ．しかし院試に落ちたら始めようと就職活動を先延ばしにしていたところ，どういう訳か受かってしまった．それが修士課程進学の理由である．

四回生の頃だったか，幾何演義担当の原田雅名先生と個人的にお話する機会があった.「あなたからは数学に対する情熱が感じられない．彼に相談してみなさい．何かヒントが得られるに違いない.」と学生さんを紹介してくださった．一年上の先輩である．だが，私はせっかくの助言に従わなかった．知らぬ人に会うのも院生室を訪ねるのも気後れしたのだ．紅一点であることを過剰に意識していたようにも思う．助言に従っていたら，いや，従うことが出来る素直な私であったならその後の数学との関わり方が大きく違っていたかも知れない．

結局勉強に身を入れることなく結婚し，産後ようやくお情けで学位をいただくことになったが，好景気だった四回生の頃とは一転して就職氷河期に入っていたこともあり，職はなかった．一時的に TEX 編集，Web デザインなどに関わり，数学とは縁のない一生を送るつもりでいたこともあったが，その後大学の非常勤講師として数学と再会し，現在に至る．

平井先生は細部に亘って気配りをする人である．世間知らずの私の言動は先生をはらはらさせることが多かったに違いない．そんな私であるにも拘らず，先生を始め研究室の方々は本当によくしてくださった．今でも気にかけていただいている．また，講演よりも遠足を楽しみにするという不真面目な参加ではありながらも表現論シンポジウムには河口湖以来しばらくは毎年顔を出していたが，非常勤の口を紹介してくださったのはこのときの知り合いである．私は決して熱心な学生ではなかったが，このように人には本当に恵まれてきた．

けれども研究を退いてからというもの数学関係者と会うのを躊躇う気持ちがあり，そのうち学会やシンポジウムには行かなくなってしまった．

同窓会に対してもそれに似た思いがあった．2015 年 6 月に会が設立されたと幹事の一人である同級生の平賀郁さんから聞いてはいた．このような会を一から立ち上げた諸先生方には大変なご苦労があったろうと想像する．だが，どうせ集まるのは研究者ばかりに違いないと別世界のことのように感じていた．

しかし，優秀な人が普段接するのは必ずしも優秀な人ばかりとは限らない．私が思うほど相手は私の凡庸さなど気にしてはいない筈だ．そのことに気付いたとき，ふと平井先生に会いたくなった．連絡してみたところ，突然の訪問にも拘らず温かく迎えてくださった．先生のご自宅は，大きなホワイトボードを備えた立派な研究所になっている．偶然外国の研究者が滞在中で，久しぶりに数学の講演を聴くことが出来た．奥様の手料理も健在であった．そして今回は平賀氏や事務の篠崎由加里さんから誘っていただいたこともあって，同窓会に出席してみようと思い立ったのだ．

総会後の懇親会で井川先生とお話することが出来た．優秀な人達の集まりに出向くのは場違いだと思っていたと正直に話した．先生の答えは意外なものであった．先生ご自身も研究者仲間に対して引け目を感じることがおありだという．一瞬驚いたが，直後に納得した．劣等感を全く持たぬ人間など世の中の圧倒的少数派だと思うのだ．

安易に数学への道を選んだのは失敗だったと後悔した時期もあった．その後の人生も失敗続きである．が，失敗は思わぬ出会いを生むことも多い．欲しい物がすべてそのまま手に入る人生などつまらないし，本当に強く望んだ物は，姿を変えてやってくるものだ．そう思い付いたときから肩の力が抜けた気がする．あるいは，そのように信じ込むことで生きるのが楽になったと言う方が正しいかも知れない．

その昔，国立大学を出て専業主婦とは税金の無駄遣いだと人から言われたことがある．しかし，今の私は本来研究者がすべき仕事の一部を非常勤講師として分担することで，多少は社会の役に立っているかも知れないと考えている．

同窓会出席はもちろん失敗ではない．お世話になった先生方や懐かしい友達に再会

した．そして，平井先生ともお話することが出来た．先生はいつも短い言葉の中に大きなヒントを下さる．昔は聴き逃したことが多かった．そのことに気付くまでに私も今は成長したのだ．出席者は研究者ばかりではなかった．数学との関わりは人それぞれであろう．今後私はどのように数学と関わって行くのだろう．もしかしたら今回の同窓会がそのヒントになっていたと将来気付くことになるかも知れない．あるいは，これから大きな出会いがあるのかも知れない．そう考えると楽しみである．

懇親会会場にて：左より　前列　松井充　吉田敬之　渡辺信三
後列　西村純一　松本和一郎　田中順子（筆者）　小磯深雪　鶴敏朗